

コラム ビーンズふくしま15周年記念 アニメーション企画進行中!

「フリースクールやビーンズの事を
知ってもらうマンガとか作れたら面白
いね」

15周年を機に若者たちと一緒に
PRできる“何か”を創れたらという
話が持ち上がりました。そんな中で
企画に挙がったのがアニメーション
制作プロジェクトです。現在、フリー
スクールに来ている子どもたちや卒
業生、サポステなどの他事業で関
わっている若者と職員が集い、2月よ
り月1回の会議と各作業を進めてい
ます。

この企画は単に映像制作するもの
ではありません。背景には大きく2つ
の想いがあります。それは「卒業生や
現利用者、スタッフを含めた参加型で
行うこと」と「作品を通してビーンズ
が大切にしてきたエッセンスを伝え
ること」です。創設期は——地域にお

いて前例がない中でゼロから新しい
組織を立ち上げる——という、“子ど
もたち”の「居場所」であると同時に
スタッフやボランティアら“若者たち”
の「冒険の場」でもあったのではない
かと当時を知る OBは語っています。
そして「今度は我々の世代が『野心あ
る冒険』を見せる番ではないか」と。
誰かの行動を後押しするきっかけに
なりたいという彼の姿勢は、まさしく
ビーンズが大切にしてきた、「支援す
る/される」ではない、「きっかけ作り
と共に悩み成長する」関係性ではな
いでしょうか。

現在は次回の総会で予告 VTRを
上映できるよう準備をしています。登
場人物のデザインや絵を動かす工程、
今後は声優にも挑戦していきます。
皆、初めての作業に戸惑いながらで
すが少しずつ形になってきています。



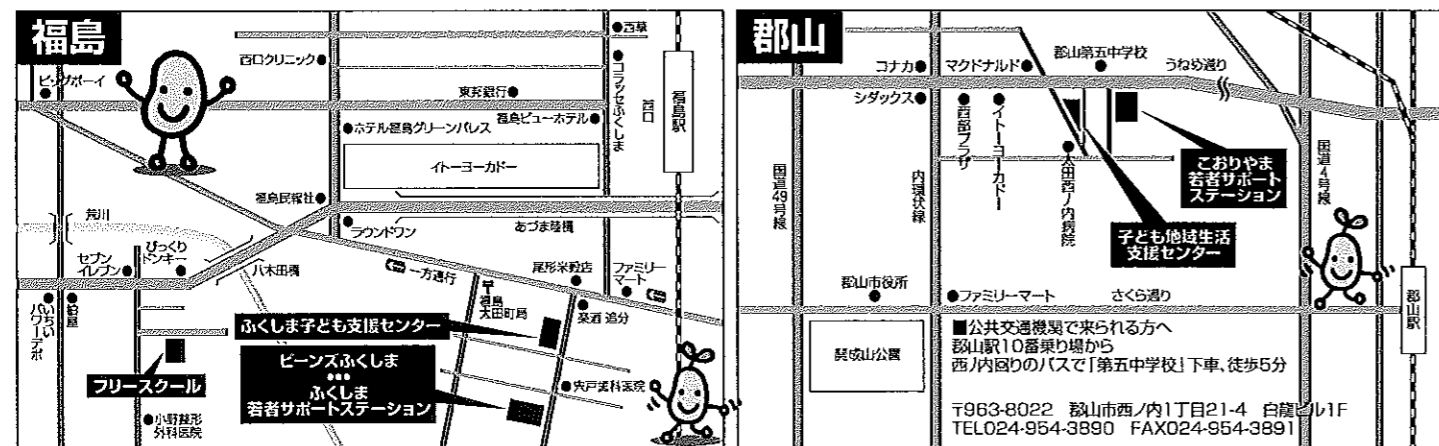
しかし、様々な課題も見えてきまし
た。基本的に PCを使った作業が中
心になるのですが、PC自体を持って
いないことやアニメーション制作ソ
フトが高価な物のため、作業環境が
整わず、興味があるのに参加できな
い子もいます。フリースクールに来て
作業できるよう環境づくりも考えて
いく予定です。企画への参加希望者
の他にも、寄付や寄贈でのご協力も
お待ちしております。

これからの活動予定

- おやまめの会(フリースクールに通っている利用者さんの親御さんの集まり)
平成27年5月16日(土) 10:00~12:00
フリースクールビーンズふくしま
- 親の会(不登校のお子さんのおられる親御さんの集まり)
平成27年5月16日(土) 13:30~15:30
フリースクールビーンズふくしま
- 親の会(不登校のお子さんのおられる親御さんの集まり)
平成27年6月20日(土) 13:30~15:30
フリースクールビーンズふくしま

編集後記

桜の季節が過ぎて、夏がやって来る。毎年一年が早く
通り過ぎていく感じがします。そんな時に思うのは、
「一日、一日を楽しく過ごすこと」です。「やらないで
後悔するよりは、やって後悔した方が良い」私の友人
が言っていた言葉です。その人は今海外を渡り歩いて
います。日本へ帰ってきたときにはどんな風が変わっ
ているのかとても楽しみです。私もこれからそんな風
に挑戦する人生にしていきたいと思ひます。



●ビーンズふくしまのホームページ はこちらへアクセス → <http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/>

●発行元 特定非営利活動法人 ビーンズふくしま

●発行日/2015年5月10日

●発行元 特定非営利活動法人 ビーンズふくしま

〒960-8066 福島県福島市矢刻町22-5 2F
TEL&FAX 024-563-6255
URL <http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/>
E-mail info@beans-fukushima.or.jp

●発行元 特定非営利活動法人 ビーンズふくしま

〒960-8066 福島県福島市矢刻町22-5 2F
TEL&FAX 024-563-6255
URL <http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/>
E-mail info@beans-fukushima.or.jp

NPO法人ビーンズふくしまは、不登校の子どもやひきこもりの青年などに安心できる居場所を提供し、
1人1人に寄り添って、ゆるやかな社会参加を促し、その自立を支援する、若者支援の理念に基づいて事業を展開しています。

新年度のあいさつ 子どもたち若者たちが 共に参画者となって

新年度が始まり、今年もまた新緑
の美しい季節を迎えました。日々変
化していく草木の様子に、内に秘め
ているパワーを強く感じます。

今年度もまた、そんな草木と同じ
ように内にパワーを秘めた子ども
たち若者たちとの出会いが待ってい
るでしょう。様々なことで悩んだり、苦
しんだり、孤立感を感じていたり…
今はそのパワーを出すことができな
い状況にある子どもたち若者たちか
もしれません。でも、そうした子ども
たちや若者たちが、誰かに出会い、楽
しいと感じることと出会い、自分ら
しく未来を考えることができるよう、
ビーンズふくしまでは今年度も、各事業
で様々な取り組みにトライしながら、
活動を進めていきます。

今年度は、昨年度まで実施してい
たピアサポートネット事業が、県委託
の終了に伴い、ユースプレイス事業へ
と移行しました。また、県中・県南地
域で取り組んでいた子どもの健全育
成支援事業も県委託の終了により事

業は終了しましたが、
代わりに助成金を受け
てビーンズ単独の事業
として集合型の活動を
中心に支援を継続する
こととなりました。

今年初めから開始し
たみんなの家@ふくし
ま事業への取り組み、郡山ではこれ
から事務所の移転に伴い、継続して
子どもたちを支援していくことので
きる地域の学びの場づくりへの取り
組みと新たな動きも進めていきます。

先月4月13日に法人内で行った
「年度はじめの会」では、そうした今
年度のビーンズふくしま内の事業に
ついて、あらためて各事業から説明を
行い、まずは自分たちの足元からと
いうことで、法人内での連携を充実
させていくために話し合う機会を持
ちました。

また、来年2月福島開催予定の第
11回全国若者・ひきこもり協同実践
交流会に向けて、現地実行委員とし



での取り組みも進めていきます。子ど
もたち若者たちが共に参画者となっ
て、一緒にみんなが生きやすい社会
を創っていけたら…そんな想いを
形にするために、皆様とつながりな
がら、活動を進めていきたいと思っ
ておりますので、ご支援ご協力、よろしく
お願いいたします。

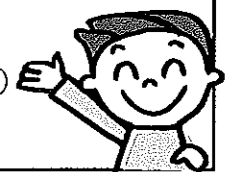


NPO法人
ビーンズふくしま
理事長
若月 ちよ

第13回定期総会のお知らせ

今年もまた定期総会の季節を迎えました。昨年度の取
組みの報告と、今年度の取り組みをお伝えし、会員の皆
様のお声を聴かせていただく会となります。これからも
子どもたち、若者たちと共に地に足の着いた取り組みを
行っていきたいと思っております。お忙しいところは存
じますが、ご出席のほどよろしくお願いいたします。

- 日時
平成27年6月7日(日) 13:30~15:30
- 場所
福島市市民活動サポートセンター
(チェンパ大町3階 福島市大町4-15)



昨年度も各事業で様々な取り組みがありました。今回は、フリースクールの様子だけでなく、新しくスタートした事業と終了になった事業にも注目してお伝えします。



みんなの家@ふくしま

お母さん・子ども・若者…地域みんなの“居場所”で

3月19日にオープンしましたが、現在の状況を教えてください。

4月末の時点で、訪問者は大人226名・子ども127名、合計353名。利用登録をした方は大人62名・子ども74名・地域の方8名、合計144名。子どもを連れて来るお母さんが多いです。4月に入って避難先から戻ってきたお母さんの登録が増えました。「ままカフェ」からつながってくる方も多く、避難を経験した方がやや多めな印象ですが、そうでない方ももちろんいます。過ごし方としては、お弁当を持参して子どもと一緒に、あるいはママ友と一緒に食べる方が多いです。地域には小さい子どもとゆっくり食事ができる場所が少ないので、重宝していただいているようです。

みんなの家を運営していて、見えてきたものは？

子どもが悩みを抱えていることで苦しんでいるお母さんが多く、避難先から戻った後に「学校に行きづら



い、行きたくない、なじめない」などの悩み。思春期の頃、小学校高学年の頃に避難したお子さんが中高生になった今、悩みを抱えている。被災者支援の対象だった子どもたちが、時がたつにつれてだんだんとピーズ本来の対象にも入ってきている印象です。こうしたことから「みんなの家」だけでなくピーズ全体で協力していくことが大切だと感じます。

今後の展開が楽しみです。

お母さんを通しての小さいお子さんから、若者まで。背景としての被災経験もわかる。幅広い対象に支援が



可能なピーズの強みは、ますます高まると思います。また最近では保健師さんや行政の方からも「紹介していいか？」などの相談もあり、地域資源として期待されているなど感じます。みんなの家から他事業や地域につないでいける。お互いにつながる。スタッフや地域の皆様には、場としても機能としても「みんなの家」をどんどん活用してほしいですね。

子どもの健全育成支援事業（福島県委託事業）

法施行に先駆けた取り組み

“困窮家庭との関わり”から見えたこと

平成24年から3年間、本事業を通して困窮家庭の子どもたちに多様な学びや気づきの機会を提供してきました。その中で少しずつですが困窮家庭の背景として見えてきたのは、困窮家庭は必ずしも経済的な面だけに課題を抱えているわけではないということです。病気が障がい、社会資源との関係不和等といった背景が子ども・保護者共に複合的に存在しており、これらが貧困や孤立の引き金

となっています。当法人が取り組むべきは表面にある貧困の部分ではなく、その原因となっている種々の背景です。残念ながら本事業は昨年度で終了となりましたが、今年度は「子どもの貧困対策支援事業」として対象家庭との関わりを継続していきます。今後も子どもたちやその家族が生きやすい社会を創っていくために何が必要なのか地域に発信していきます。

■生活困窮者自立支援法について

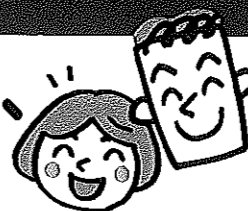
今年度4月よりこの法律が施行されました。これは生活保護に至る前の段階の生活困窮者に対し、就労等の自立のための相談の実施、離職により住居を失った場合の給付金支給等を通して、自立支援を行うというものです。自治体により、就労のための訓練や子どもたちへの学習支援等も行っています。

福島県の相談窓口は主に社会福祉協議会または各自治体になっております。詳しくは県庁、各市町村にお問い合わせください。



フリースクール

それぞれが自分と向き合い、成長を実感できました



26年度を振り返って、印象に残っているイベントは？

宿泊を伴うイベントですね。夏のキャンプ、秋のお泊まり会、年度末の松島旅行など。特に夏のキャンプでは、みんなで川遊びしたり夜には暗闇の中で鬼ごっこしたり、とても楽しかったです。実はこのキャンプ、例年は2泊3日で実施していたのを、1泊2日にしたんです。話し合いの時、「1泊なら行けるかもしれない」という意見が出て、話し合いの流れが変わりました。せっかくだから、みんな参加できて、楽しめる方がいいよね、と子どもたちがお互いに思いやり、参加しやすいよう工夫したのが、この夏のキャンプでした。おかげで、短くとも濃い時間になりました。あと、スタッフとしては松島旅行もよかったと思っています。水族館に行ったり遊覧船に乗ったり、民宿に泊まって、お風呂は近所の日帰り温泉に行ったり。また、時間通りにいかない、帰りに電車が止まるなどの、予定外のことがあって、その都度「じゃあどうする？」とみんなで考えられたのがよかったです

ね。それぞれが意見を出し合って、でもなかなか決まらなくて。こうした、物事がすんなりいかない感じや、意見の多様さを実感できる、いい機会になったのではないのでしょうか。

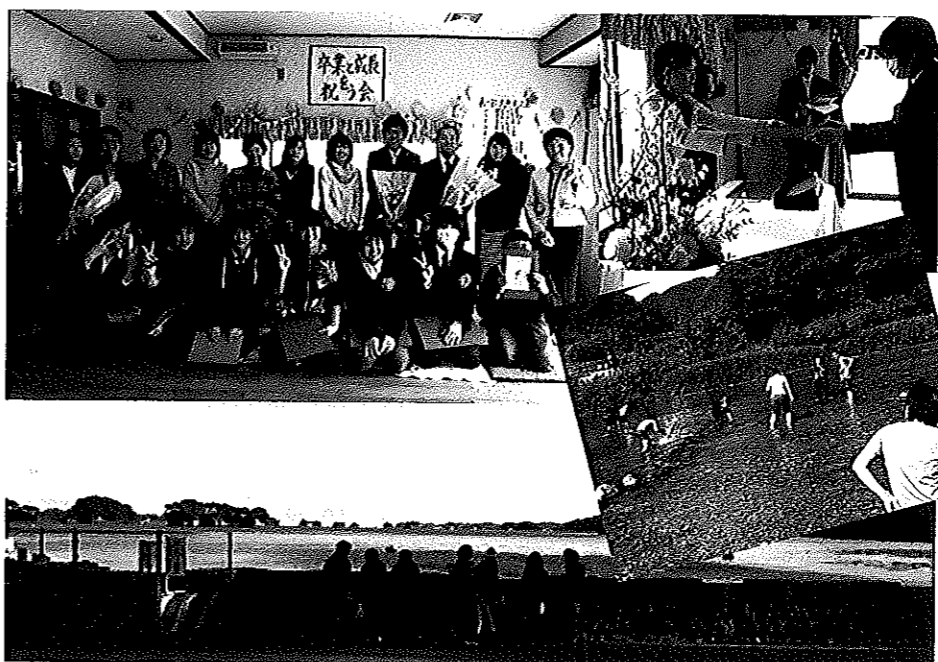
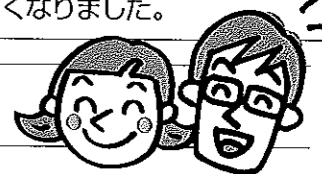
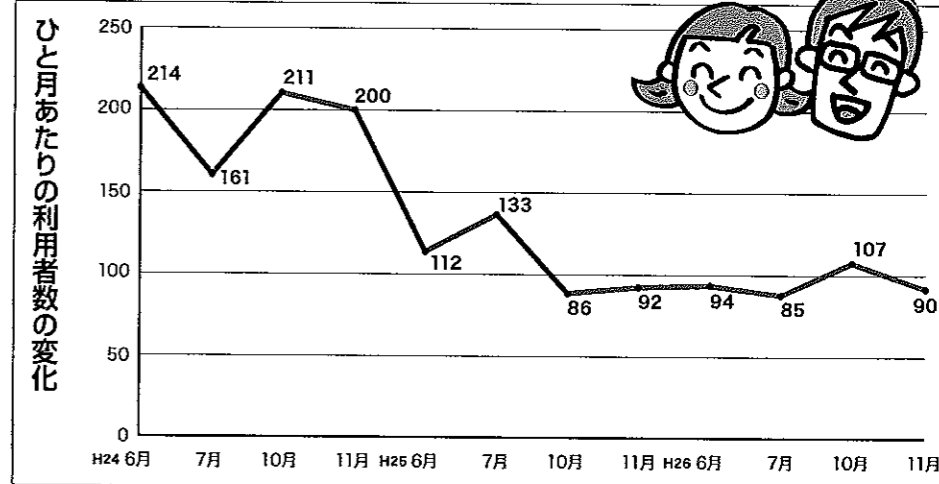
イベントではない日常の部分は、どんな様子でしたか？

相変わらずカードやテレビゲームが流行っていましたが、夏には水かけっこで盛り上がりました。庭でテントを洗っていたらそのままお互いに水をかけあったり。容赦なくやるので、子どももスタッフもびしょ濡れでした。

そのうち、屋外だけでなく室内でも霧吹きで水をかけあったりして。盛り上がりすぎて近所からお叱りも受けましたが、今年の夏もみんなでびしょ濡れになろうと思っています。

「卒業と成長を祝う会」はいかがでしたか？

自分の「今」をしっかり受け止めようとしている子が多かった印象です。「あまり動けなかったけど自分と向き合うことができた」「受験という道もあると思えた」など、自分を見つめて、今の自分の良さや変化したところに気づくことができたのかなと思います。自分はここまでできた、と自分の成長を認めることができていて、とても嬉しくなりました。



ところで、最近はフリースクールにくる子が減っているといいますが。

昨年度は、進学や就職で10名ほど抜けたため特に人数が減りました。ただ、少人数だからこそフリースクールで過ごす時間を大切に、楽しんでいる様子も見られました。子どもたちのなかに「安心感」があった印象です。また、子どもだけでなくスタッフも少なかったため、保護者の方、卒業生の保護者の方にとっても助けられました。大変心強かったです。27年度もスタッフが少人数なので、保護者の方や地域の方のお力を借りつつ、子どもたちを見守ってまいります。